

令和4年度の校内授業研究及び公開研究授業について

1 校内授業研究のテーマ

本年度は、校内授業研究テーマを「他者の考えを知ることで、自分の考えを広げる指導と評価の研究」とし、全教職員で研究テーマを踏まえた授業改善と公開授業研究を行った。

2 公開研究授業について

(1) 実施日時 令和4年12月2日(金) 13時30分～17時00分

(2) 詳細な時程

13時30分	学校あいさつ
13時40分～14時30分	公開研究授業①(5時間目)
14時40分～15時30分	公開研究授業②(6時間目)
15時45分～16時20分	研究協議会(教科ごとに実施)
16時30分～16時50分	全体会

(3) 実施した教科、科目及び学年

- ・国語 言語文化 1学年
- ・地理歴史 地理総合 1学年
- ・数学 数学Ⅱ 2学年
- ・理科 化学基礎 2学年
- ・保健体育 保健 2学年
- ・外国語 コミュニカティブスキルズⅡ 2学年
- ・情報 情報の科学 2学年

(4) 学習指導案について

- ・2ページから28ページに掲載しています。

(5) 研究協議について

- ・29ページから37ページに掲載しています。

令和4年度 横浜氷取沢高校 グローバル教育研究推進校 公開研究授業

学習指導案

令和4年 12月2日(金) 6校時

教科:国語	科目:言語文化	授業者:竹原北斗
単元名:『土佐日記』「門出」・「帰京」		

1. 本単元で育成したい資質・能力 【目指すべき生徒の学ぶ姿】

現代語訳だけを理解するのではなく、本文を通して筆者の考えを理解し、自己の見方・考え方を深めてもらいたい。また、他者と考えを共有することで、自分の考えをさらに広げ、深められるようにしたい。

2. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。[(2)ウ]	「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。[B(1)イ]	本文に込められた作者の意図について粘り強く考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。

3. 単元について

本単元は、日記文学の嚆矢となった作品である。作者の仮託した女主人公がこの日記を執筆した動機や、作者が女性に仮託して執筆した理由について理解させたい。さらに、文中に表れる臃化表現や諧謔表現について気づかせ、作者の意図について考えさせたい。また、「帰京」の本文読解を通して本作の主題の一つである子どもを失った悲しみを理解させ、女性仮託をした理由についてさらに理解を深めさせたい。

4. 単元計画における指導と評価の工夫点

(1)「知識・技能」の指導と評価

指導:日記文学について調べさせる。語句の意味や文法を確認しながら読み進める。

評価:小テスト・定期テストで評価する。

(2)「思考・判断・表現」の指導と評価

指導: ペアワークやロイロノートを活用し、様々な意見に触れることができるようにする。

評価: 授業中の生徒の観察・発言で適切な声かけを行うと同時に、ワークシートなどで評価する。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

指導: 発問に対して自分の考えを表現するだけでなく、他者の考えに触れることで、粘り強く考察させる。

評価: 授業中の生徒の観察・発言で適切な声かけを行うと同時に、ワークシートなどで単元を通した自己の変容について評価する。

5. 単元の指導と評価の計画(本時は、6 時間扱いの 2 時間目)

◇は「学習の質を高めるための評価」(* 形成的評価)、☆は「*記録に残す評価」(総括的評価)

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価場面・評価活動
1	<ul style="list-style-type: none"> ・単元目標を確認する。 ・『土佐日記』の概要を理解する。 ・「門出」を読み、内容を確認する。 		
2 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・女性仮託した理由について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 P111 を参考にしながら考えさせる。 ペアワーク・ロイロノートを活用し、様々な考えに触れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☒ ワークシート(◇) ☒ 生徒の観察・発言の確認(◇)
3 ・ 4	<ul style="list-style-type: none"> ・「帰京」の本文読解 	<ul style="list-style-type: none"> ・語句や文法を確認しながら読み進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ☒ 生徒の観察・発言の確認(◇)
5	<ul style="list-style-type: none"> ・「帰京」の内容から、土佐日記の主題を理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> ☒ ワークシート(◇)
6	<ul style="list-style-type: none"> ・女性仮託した理由について自分の考えをまとめる。 ・振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ペアワーク・ロイロノートを活用し、様々な考えに触れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☒ ☒ ワークシート(◇) ☒ ☒ 振り返りシート(☆)
後 日			<ul style="list-style-type: none"> ☒ ☒ ペーパーテスト(小テスト・定期テスト)(☆)

6 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	【評価の観点】評価方法
導入 (5分)	本時の流れを確認する。		
展開 (40分)	<p>①教科書 P110.111 を読んで漢文日記と仮名日記の違いを理解する。</p> <p>②教科書P111「言語活動1」の問題に取り組む。</p> <p>③クラス全員の答えを共有し、自分の考えを深める。</p>	<p>①重要だと思うところはプリントやロイロノートにまとめるよう指示する。</p> <p>②個人で考えさせた後、ペアワークで考えを共有させ、ロイロノートに答えを提出させる。</p> <p>③他者の考えに触れさせ、②で提出した答えに加筆するよう指示する。</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>ワークシート(◇)</p> <p>生徒の観察・発言の確認(◇)</p>
まとめ (5分)	次回予告		

7 今年度の校内授業研究テーマに対して授業者が意識して取り組んできたこと

ペアワークだけでなく、ロイロノートを活用することでクラス全員の考えを共有する機会を設けている。
また、それにより国語が苦手な生徒が他の人の解答を参考にすることができるため、何もしない状態にならないような授業づくりを意識している。

令和4年度 横浜氷取沢高校 グローバル教育研究推進校 公開研究授業

学習指導案

令和4年 12月2日(金) 5校時

教科:地理歴史	科目:地理総合	授業者:古屋 唯生
単元名:宗教・言語と生活文化		

1. 本単元で育成したい資質・能力 【目指すべき生徒の学ぶ姿】

この度の研究テーマを考察するにあたり、地理総合において、国家の三要素(国民・主権・領域)を前期の授業で国境確定の諸問題を通し、生徒は学んでいる。そのうえで、地形・気候を学習し、系統地理においての農業・工業の基礎的な知識を習得した。グローバル化する社会の中で、本単元では、生徒が人種・民族の隔たりに係る根本的な人類的課題に気がつき、身近な生活の中に、世界の諸問題、特に「民族」に関係する課題と向き合う能力を育成したい。「相互理解」への資質・能力は、地理総合において、大きな目標である「多文化共生社会」の実現に大きく関わる。

授業者としては、地理総合を通し、グローバル人材を育てる教育とは何かを考察する機会としたい。社会科教育に携る者の視点として、「異文化の背景を考察」、「地球市民的感覚」「世界的諸課題と自身とのつながり」の涵養が全ての軸になる。授業者の海外旅行体験、海外生活体験とまぜながら、本時で学ぶ内容が、生徒に国際社会で生きるための必須能力であることを体感してもらいたい。

2. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
教科書・資料集・教師作成プリント等を理解している。語句の暗記ではなく、その語句の背景、環境を理解している。 各単元の知識・技能をつなげ、出題された課題に対し、横断的に考察し、説明できる。	授業の中で扱われたものを、自己のノートに整理し、派生する事象を調べまとめ作業することができる。また、授業内容を掘り下げ、地理総合と歴史や現代社会、政治経済分野とも繋げ、自己の思考深め、判断力、表現力に繋げる。	主体的に授業に参加し、知りえた情報や考察を知識・技能、思考・判断・表現を総合的に結び、各提出物、授業中の態度として望むことができる。また、班別学習等の中で、自らの意見・考察を他者と共有することができる。

3. 単元について

本単元においては、すべて持続的な「多文化共生社会」に紐づく内容の構成になっている。つまり、生徒が4月から学んできた、学習の総合が、人類に共通する言語・宗教・文化の諸課題となり、表面化する場合が散見され、その背景にある系統的な地形・気候・農業・工業の形成や発展経過を学んだうえで、この年末のカリキュラムを実施している。本単元の軸になる「民族」の適切なとらえ方、生徒の身近な経験と人類的課題は常にリンクしており、地理的事象を総合的に結びつける能力が必要になる単元である。

4. 単元計画における指導と評価の工夫点

(1)「知識・技能」の指導と評価

生徒には毎時ノートを作成させている。ちょうど12月は1冊目が終わり、2冊目に入ろうとするあたりであり、授業のノートは右ページに書いている。そこから、各試験への対応、授業の要点が、電子黒板や黒板に写され、まとめていく形式をとる。ノートは、前期後期で計4回回収され、チェック&評価を受ける。その集大成として定期試験が位置づけられている。

(2)「思考・判断・表現」の指導と評価

ノートの左側である。そこには自ら調べる課題、班で学習した課題(プリント含む)が生徒独自に仕上げられる。課題の評価はすべて5段階にわけられ、通常授業のみこなすノートは3の評価がつけられる。3.5~5の評価は全て、ノートの左側に集約される。そのため、生徒のノートは様々な成果が詰め込まれ、厚くなる。授業の課題を、授業者が示し、発展的に調べる。個人で調べるもの、班活動によるもの等、ノートの左側が(2)に相当するものである。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

態度は、授業での態度をあまり考慮しない。その時々、眠そうに見える生徒、まじめそうに見える生徒の差を点数化などできない。授業を受けなければ、成績をとれないようにするのは、こちら側であり、(3)においては、(1)と(2)の総合が大きく影響する。

※本校がコロナで長期休業になる対応等や課題等を要する生徒以外は、授業者の観点から、クラスルーム・ロイロ等での提出はない。生徒の筆記を確認しやすく、ノートは手作業で作るものであり、手で受け取り、手で評価する、教員からのメッセージを含み、手回収したものは、生徒の意欲、実際の重みが違うと判断している。全生徒のノート・調べ学習など、プリントチェックは、大変な手間と時間を要するが、評価物の基本は、画像提出等は現在ほとんどない。

5. 単元の指導と評価の計画

(本時は、5～6時間扱いの4時間目)※11月17日後期中間試験～冬休み始まるまでの計画

◇は「学習の質を高めるための評価」(*形成的評価)、☆は「*記録に残す評価」(総括的評価)

時	主な学習活動	指導上の留意点※共通	学習内容	評価場面・評価活動
1 2	黒板・電子黒板をノート右側にとる。また、ノート左側に、そこから得た課題を調べる。	教科書・資料集・教師作成プリントを中心に進めるが、地理総合では、関係するページが多岐にわたるため注意、配慮する。	世界宗教について: 仏教、キリスト教、イスラーム	知 思 主 ☆ 板書を写すことに終始せず、授業内容を発展的に調べるように促す。また、要点を復習・確認する。
3	黒板・電子黒板をノート右側にとる。また、ノート左側に、そこから得た課題を調べる。	扱うものが、宗教など、生徒の心情、精神、価値観に関係するものが多く、注意、留意する。	民族宗教について: 神道、儒教、ヒンドゥー教を事例に	知 思 主 ☆ 各宗教の広がりやを、細くプリント等で色分けするなど視覚的な教材を作成し、評価に加える。
4 本 時	黒板・電子黒板をノート右側にとる。また、ノート左側に、そこから得た課題を調べる。	広くみえる世界の課題は身近なところがあり、その課題が世界共通の課題であることを留意する。	民族:帰属意識、ナショナリズム、多文化共生社会の実現への考察	知 思 ◇ 教師の海外体験を事例にあげ、世界共通課題の解決手法を生徒が導き出せるように促す。
5 6	通常の学習活動に、班別活動を取り入れる (人種差別とは何かを考察・課題解決への道)	生徒の気づきを大切に進め、いかに混沌としたモザイク状の世界かを意識させ、善悪の判断は、危険であることを留意する。	人種・言語について: 差別問題等、普遍的課題についての考察含む。	主 ◇ 人種をテーマに課題提示・解決への考察を班で意見を交わし道筋を立てるように促す。
7	単元の演習問題 復習	知識としての確認をする。	復習・生徒作成物回収	知 ワークシート ◇

6 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	【評価の観点】評価方法
導入 (5分)	授業者からみた海外体験のエピソードを通して、地球市民的な感覚、国際的に普遍的な共生意識を確認する。 【ギリシャ、クロアチア】	思い出話ではなく授業の終わりを意識した、「多文化共生社会」について興味関心をひくことに留意する。	【思・判・表】 教科書、資料集授業者がわが指示した瞬時に開けるか、その体制を確認、生徒の観察◇
展開1 (5分)	共に生きる「共生」の世界を学ぶ。本時において、何を学び、何を考察する必要があるのか伝える。	私たちの世界の平和、国民としての意識、アイデンティティはどこから来るのかを意識させる。	【思・判・表】 生徒の観察・発言の確認を授業全体で把握(◇)
展開2 (10分)	海外に行く、住むということは、どういふことかを考える。 【パプアニューギニア】の活動題材	民族が、「帰属意識」集団であることの確認に留め、展開3を意識させる。	生徒が教師作成プリントに記入でき、さらに発展的な内容に気づき、調べることの契機になるか(☆)
展開3 (10分)	復習:国家の三要素を中心に復習 主権に着目 主権のおよぶ範囲が領域、主権を持つ者を国民→国境問題など復習	物事のルーツを考えると、様々な事象があやふやで、不安定に満ちていることに留意させる。 何をもって「日本人」なのか 生徒から聞き取ったことを板書し、皆で確認する。	生徒が教師作成プリントに記入でき、さらに発展的な内容に気づき、調べることの契機になるか(☆) ノートの記録(☆) ※生徒から出てきた内容を板書に整理→そこから知り得たことを、電子黒板で整理
展開4 (5分)	Majority か Minority について 【カンボジア】の体験談、国際紛争の多発確認、民族とは何か	※写真はタブレット (meet 画面共有)	教科書・資料集を読み、教師のアプローチが生徒に伝わっているかを確認(◇)
展開5 (5分)	帰属意識の多文化主義への課題への挑戦、「地球市民」についてその感覚の重要性 私たちが常に意識する大切なこと 付箋交換 相手の気持ちをしる努力・必要性	※ノートは電子黒板 紛争を考えることは、平和を考えることである、そこには生徒の個性、主張、アイデンティティが含まれ問いかけるに留め、断定しないことに留意する。	教師のスライドショー体験談から、国際問題への解決への糸口を感じ、探る(◇) 生徒同士の思いや意見を交換できるか、相手を知ることの難しさ→ノートに添付(☆)
まとめ (10分)	内戦と傷跡・【ルワンダ】から学んだこと(時間が許す限り)	戦争の凄惨さ、繰り返さないためには、どうあるべきか 帰属意識は何たるかを考える時間とする。	各自、教科書最終ページ、地理を学ぶ理由を確認し、ステップアップ 1・2 にトライ(授業後 ☆)

7 今年度の校内授業研究テーマに対して授業者が意識して取り組んできたこと

本年度において、地理の学習は、地球のこと、時差、国境、大・小地形、気候、農業、そして、現在の単元の中に組み込まれる、宗教、民族との系統的な流れを意識してきた。教科書最後に書かれているとおり「地理」という学問は、地の理(ことわり)である。グローバル教育研究推進における学習の内容は多岐にわたり、その根幹を形成するのは、世界の広がりとともに、人類的課題について、冷静に自己を振り返りながら考察することである。国とは何か、民族とは何かを考えること、「帰属意識」に着目し取り組んできた。盛りだくさんであるが軸がぶれないようにした。

令和4年度 横浜氷取沢高校 グローバル教育研究推進校 公開研究授業

学習指導案

令和4年 12月2日(金) 5校時

教科:数学	科目:数学Ⅱ	授業者:安居院 健太
単元名: 導関数の応用		

1. 本単元で育成したい資質・能力 【目指すべき生徒の学ぶ姿】

微分・積分の内容は日常生活とも密接な関わりを持つ内容となっているため、日常の話題を例に取りながら微分・積分の有用性や重要性を感じ取り、他者の意見も取り込むことで自ら学ぶような姿勢を育てたい。

2. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	知識・理解	技能・表現	見方・考え方
導関数を理解しようとしている。微分について、グラフを利用して考えようとしている。	微分の簡単な計算ができる。微分の計算公式を理解している。	導関数についてグラフを用いて説明することができる。	平均変化率や微分係数を用いて発展的な問題を解くことができる。

3. 単元について

本単元「導関数の応用」は前節の「微分係数と導関数」の知識をもとにして一般的な関数の接線の方程式を学び、接線の傾きに着目して関数の増減を調べることにより、3次関数や4次関数を書くことができる重要な単元である。したがって前節の復習を意識しながら学習に取り組ませたい。

4. 単元計画における指導と評価の工夫点

(1)「関心・意欲・態度」の指導と評価

数学Ⅱにおける終盤の内容なので基礎内容の定着度合いについて、既に格差が生まれている。理解するために粘り強く取り組む姿勢を提出課題や授業中の態度で評価する。

(2)「知識・理解」の指導と評価

微分の簡単な公式や計算を確実に身につけられるように授業中に確認し、単元テスト等で自分自身でも定着度合いを確認する。評価については定期テスト、小テストで評価を行う。

(3)「技能・表現」の指導と評価

導関数の理解度を見るために協働作業や発表の機会を設け、表現する。

評価については授業中の成果物と定期テストで評価を行う。

(4)「見方・考え方」の指導と評価

発展的な内容を考えさせ、微分の本質に触れられるようにヒント等を与えながら授業で考える時間をとる。

評価は定期テスト、演習課題で行う。

5. 単元の指導と評価の計画(本時は、13時間扱いの3時間目)

◇は「学習の質を高めるための評価」(* 形成的評価)、☆は「*記録に残す評価」(総括的評価)

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価場面・評価活動
1	平均変化率から微分係数を求める。 微分係数を用いて接線の方程式を求める。	復習を行い、前節の内容の続きでその知識を利用することを意識させる。 視覚的な教材を提示し、グラフの利用が必要と認識させる。 協働作業を促す。	関ワークシート(◇) グラフや思考の過程を記録しているか確認する。 提出を促す。
2	関数の増減について、増減表を作成して完成させる。	関数の増減を理解するために今までで取り扱ったグラフを利用する。	知ワークシート(◇) 増減表を用いて関数の増減を整理する。
3 本 時	関数の極大・極小について増減表を書きながら求める。 高次の関数グラフを作成する。 グラフを用いた発展問題に取り組む。	前回までの内容を利用していることを理解させる。 グラフ作成には時間がかかるので演習の時間を多めに取る。	関ワークシート(◇) 増減表を整理し、グラフを作成させたワークシートを提出する。
4 7	高次の関数グラフを作成する。 グラフを用いた発展問題に取り組む。	進度のばらつきが出るため、内容が進んでいる生徒には追加の問題を配布する。	見演習課題(◇) 増減表を整理し、微分の意味ついて理解しながら記入させる。

8 9	区間に制限のある関数の最大 最小を求める。	増減表やグラフ、定義域に注意しながら 問題に取り組ませる。 グラフを確実に書かせる。 生徒間で答えを共有する。	技 ワークシート(◇) グループワークの様子を観察し、 他の生徒が見てもわかる解答を 作成する。
10 13	不等式や定数分離の問題を解 く。 全体のまとめの問題に取り組 む。	発展的な問題を取り扱うので、わからな い生徒はできる生徒に教えてもらいな がら解く。	見 パフォーマンステスト(☆) 事前に示した評価を元に行う。 関 振り返りシート(☆) 本単元で学んだことをまとめる
後 日	定期テスト		知 技 見 ペーパーテスト(☆)

6 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	【評価の観点】評価方法
導入 (10分)	目標の確認をする。 前回は学んだ関数の増減について復習をする。	視覚的教材を用いて理解がしやすいように努める。 口頭でやり取りをしながら内容の定着度を見る。	
展開 (35分)	グラフ作成について、フローチャートを参考に確認する。 接線の傾きから任意の関数のグラフを作成する。 わからない人は「みんなのノート」に記録する。 問題を解いた人は「みんなのノート」に解き方や答えを提示する。 発展的な内容に取り組む。 内容をまとめて、振り返りを行う。	グラフ作成までの流れについて、視覚的教材を利用して確認する。 グラフ用紙ツールを用意して、手書きできれいに書けるようにする。 グラフ作成ツールを用意して、自分の書いたグラフと同じか確認する。 協働作業を促し、気づきについては共有しやすい環境を作る。 理解できない生徒もいるのでわかる人に教えてもらうように促す。 発展問題についても共有等を利用してチャレンジさせる。	【関心・意欲・態度】 ワークシートを用いて内容を記録させ、それを授業の終わりに提出させる。(◇)
まとめ (5分)	内容のまとめ 次回の連絡 週末課題の確認	ワークシートを提出する。	

7 今年度の校内授業研究テーマに対して授業者が意識して取り組んできたこと

昨年までは ICT の利活用をしていたので、今年度も継続しながら今年度指定を受けたグローバルの内容をミックスした内容にするためロイロノートの共有機能やグーグルの機能を中心に生徒と共に学んできた。今回もそれらのツールを使用して授業を行う。

コロナ禍だからこそその共有の方法について、今までの授業を通して、模索しながら今回の研究授業を作り上げてきた。他者の考えをどう知ることが大切であると考えている。

令和4年度 横浜氷取沢高校 グローバル教育研究推進校 公開研究授業

学習指導案

令和4年 12月2日(金) 6校時

教科:理科	科目:化学基礎	授業者:安齋 賢
単元名: 物質と化学反応式 化学反応式と化学変化の量的関係		

1. 本単元で育成したい資質・能力 【目指すべき生徒の学ぶ姿】

物質という概念を知り、化学変化を通して起こる物質の量的関係を理解する。さらに、濃度という概念や様々な実験の状況を読み取り、思考力、判断力、表現力を育成し、その内容を他者へ説明することで自分の考えをさらに深められるようにする。

また、計算などの考え方については日常生活で使用したり、小学校、中学校で学習した方法をいかに活用できるかという化学だけでなく、自分の実生活でも活かせる考え方を養いたい。

2. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
化学変化と物質の質量に関する現象に進んで関わり、それを化学的に探究するとともに、日常生活とのかかわりで見ようとする。	化学原価と物質の質量に関する現象の中に問題を見出し、目的をもって事象の結果を分析して、解釈し自らの考えを表現している。	化学変化と物質の質量に関する現象について観察・実験の基本操作の習得・実施・結果の整理などを行い、探究する技能を身に付けている。	化学変化と物質の質量に関する現象についての基本的概念を身に付け、物質量を含む様々な単位を扱う知識を身につけている。

3. 単元について

本単元は、化学変化についての観察、実験を行い、結果を分析し解釈し、化学変化における物質の変化やその量的関係を理解させるとともに、これらの現象を原子や分子のモデルと関連付けてみる見方や考え方を養うことが目的である。

化学変化を考えるにあたり、今後の化学を学習する上で重要な考え方であり、また、日常生活の中でも同じ考え方で課題を解決することのできるものである。物質の量的関係を理解し、課題を解決する過程を順序だてて説明することも自分の考えを表現することとして大きな効果が考えられる。

4. 単元計画における指導と評価の工夫点

(1)「関心・意欲・態度」の指導と評価

化学変化に対する概念に対して、進んで学び、他者との関わりの中で理解を深めているかどうかを指導する。グループでの課題解決への姿勢を確認する。授業内では、グループ活動においてペアや班での活動を通して、問題にどう向き合ったかを班での活動や提出されたプリントで評価する。

(2)「思考・判断・表現」の指導と評価

化学変化に対する実験を通し、物質の変化と利用における規則性と関係性を探究し、他者へ伝えようように表現できていることを動画解説を自分の言葉で解説することを指導する。授業内では、自分の伝える内容を順序だてて説明し、問題を行っているかを提出されたプリント及びペーパーテストで評価する。

(3)「観察・実験の技能」の指導と評価

化学変化に対する実験を通し、データの読み取りやその意味を見出すことを指導する。授業内では、データを読み取る作業を通し、他者との意見交換により課題を進められたかを提出されたプリントとペーパーテストで評価する。

(4)「知識・理解」の指導と評価

化学変化に対する規則性や法則性をもとに、提示された方法の中から、自らの解決方法を作ることを指導する。授業内では、規則性や法則性を用いた問題を基に自分の方法を確立して行えたかを提出されたプリントとペーパーテストで評価する。

5. 単元の指導と評価の計画(本時は、12時間扱いの11時間目)

◇は「学習の質を高めるための評価」(* 形成的評価)、☆は「*記録に残す評価」(総括的評価)

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価場面・評価活動
1	原子量・分子量・式量についてペアワークを通じて概念の理解をする。	概念の説明に図を提示する。質問を通して教え合う環境を作る。	関 生徒の観察とワークシート(◇) ペアワークでの様子でやり取りを観察、または補助をする
2 3	物質量についてグループワークを通じ、法則の規則性から利用法を検討する。	法則の規則性を考え方を複数提示する。	関 生徒の観察とワークシート(◇) グループワークでの様子でやり取りを観察、または補助をする 知 ワークシート(☆) 自分の考え方を決めているか確認する。
4 5	濃度についてグループワークを通じ、概念を理解する。また、問題を解いていない生徒に対して、解説を順序だてて説明する。	2種類の濃度の表し方の違いと関係性を提示する。関係性について解説動画を通して順序だてて説明できるように、補足する。	関 生徒の観察とワークシート(◇) グループワークでの様子でやり取りを観察、または補助をする 思 ワークシート(☆) 2種類の濃度をつなぎ合わせる考え方を他者に説明する。

6 7	化学反応式についてグループワークを通じ、化学反応式の係数を決定法を検討する。	係数の決定法を考え方を複数提示する。	<input type="checkbox"/> 関 生徒の観察とワークシート(◇) グループワークでの様子でやり取りを観察、または補助をする <input type="checkbox"/> 知 ワークシート(☆) 問題を解く過程で 2 種類の方法をどのように利用しているか。
8 10	化学反応式の量的関係についてグループワークを通じ、これまでの法則性と照らし合わせ学習をする。	お互いに課題解決を説明するための共通の考え方を提示する。	<input type="checkbox"/> 関 生徒の観察とワークシート(◇) グループワークでの様子でやり取りを観察、または補助をする <input type="checkbox"/> 思 ワークシート(☆) 量的関係を利用し、課題解決への道筋を順序だてて表現できているか。
11 本 時 12	化学反応における過不足のある考え方や混合物を含む課題についてグループワークを通じ、課題解決を行う。また、問題を解いていない生徒に対して、解説を順序だてて説明する。		<input type="checkbox"/> 実 ワークシート(☆) 実験結果に関するデータをから意図を読み取り、他者と協議できるか。 <input type="checkbox"/> 思 ワークシート(☆) 量的関係を利用し、課題解決への道筋を順序だてて表現できているか。
後 日	定期テスト		<input type="checkbox"/> 知 <input type="checkbox"/> 思 ペーパーテスト(☆)

6 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	【評価の観点】評価方法
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・前回までの確認 ・本日の内容(自分でグラフた表を理解すること) 	<ul style="list-style-type: none"> ・本日のテーマを確認する。 	
展開1 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> ・1～10グループの中でA,B班に分かれ、グラフや表から読み取れることを話し合う。 ・A,Bグループに分かれた状態で話し合った結果をもとに解説動画を確認し、自分で問題を解くための説明をできるようにする。 ・元の1～10グループに戻り、自分の解いた問題のグラフや表の意味を伝え問題を解いてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・答えが出てこない班には本日のテーマを確認させる。 ・問題が進まない班には、つまづいているポイントを認識させる。 	<p>【実・観】 生徒のデータの読み取りなど 観察・発言の確認(◇)</p> <p>【思・判・表】 解説動画から問題を解く作業での発言の確認(☆)</p>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・データを読むのに必要な考え方などを確認する。 		<p>【思・判・表】 提出されたプリントの解答の仕方など(☆)</p>

7 今年度の校内授業研究テーマに対して授業者が意識して取り組んできたこと

実験結果から読み取れることに対して意見を出し合い、自分の気付かなかったところを考えようとする取り組みにかどうかを見ていきたい。文系のクラスであり、化学・理科という科目に対しての苦手意識を持っている生徒も多いが、一人で解決できなくても、まずは人の力を借りて理解する、そして再現するという作業は様々な場面で活用できると思うので、そのような経験・体験をしてもらえるように進めたい。

令和4年度 横浜氷取沢高校 グローバル教育研究推進校 公開研究授業

学習指導案

令和4年 12月2日(金) 6校時

教科：保健体育	科目：保健	授業者：武田 健太
単元名：環境と健康		

1. 本単元で育成したい資質・能力 【目指すべき生徒の学ぶ姿】

人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすこともあること。このため、様々な対策がとられていることを学び、主体的に捉える能力を身に付ける。

2. 単元の評価規準

関心意欲態度	思考・判断	知識・理解
社会生活における健康の保持増進には、労働と健康に関する活動や対策が重要であることに関心をもち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。	社会生活における健康の保持増進に関わる課題の解決を目指す。習得した知識を活用し、学習活動により、総合的に考え、判断し、それらを表すことができる。	社会生活における健康の保持増進、及び課題や対策について基礎的な知識を身に付け理解できている。

3. 単元について

本単元「環境と健康」では人間の生活や産業活動によって自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすこともあること。このため、様々な対策がとられていることを理解する。

4. 単元計画における指導と評価の工夫点

(1)「関心・意欲・態度」の指導と評価

- ・環境と健康に関して仲間と協力し、資料を集め、調べたことを記録したりするなど、主体的に取り組めるように指導する。
- ・電子黒板を活用しロイロノートで評価を行う

(2)「思考・判断」の指導と評価

- ・環境と健康に関して資料などをもとに、整理し、分析して課題を見つけることが出来るよう指導する。
- ・電子黒板を活用しロイロノートで評価を行う

(3)「知識・理解」の指導と評価

- ・環境と健康に関して、そのための対策がとられていることについて、具体例を挙げる事が出来るよう指導する。
- ・電子黒板を活用し、学習した内容を発表内容やレポート内容を評価する。

5. 単元の指導と評価の計画(本時は、5時間扱いの 5 時間目)

◇は「学習の質を高めるための評価」(* 形成的評価)、☆は「*記録に残す評価」(総括的評価)

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価場面・評価活動
1 10/28 大気汚染	アンケート実施 ロイロによるワークシート学習 電子黒板を使用し展開 課題調べ	時間内提出を促す。	知 ワークシート(◇) 提出状況を確認する。未提出の生徒に提出を促す。
2 11/4 水質汚濁 土壌汚染	アンケート実施 ロイロによるワークシート学習 電子黒板を使用し展開 1枚レポート提出	時間内提出を促す。	知 ワークシート(◇) 提出状況を確認する。未提出の生徒に提出を促す。 関 1枚レポート(☆) 環境問題に対する関心を評価する
3 11/11 健康被害の防止 環境対策	アンケート実施 ロイロによるワークシート学習 2枚レポート提出	時間内提出を促す。	思 ポートフォリオ(◇) 〜〜を自分なりに整理し、記入させる。
4 11/25 環境衛生活動①	アンケート実施 ロイロによるワークシート学習 5枚レポート提出	時間内提出を促す。	思 ポートフォリオ(◇) グラフから読み取れることを自分なりに整理し、記入させる。
5 12/2 本時 環境衛生活動②	アンケート実施 グループワーク	グループワーク内の活発な意見を出せるように促す。	思 生徒の観察・発言の確認(◇) グループワークの様子を観察し評価する。

6 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	【評価の観点】評価方法
導入 (10分)	アンケート 授業のねらい 30秒動画視聴 前回の授業『ごみ排出量の推移グラフに対するカード提出』の確認	通常のルーティンワーク	
展開 (35分)	カード1(ピンクカード) 『率直な感想』全員分を配付 カード2(黄色カード) 『そこから予想される今後』 ・グループワーク カード3(緑カード) 『考察』 カード4(青カード) 『新たな資料、仮説』 グループ解体元の席へ カード5(白カード) 『社会・個人 取り組み』 を個人で考える。	ふりかえり 役割確認 司会、発表者、分析等 適宜巡回 サポート	【思・判・】 生徒の観察・発言の確認 (◇)
まとめ (5分)	ゴミを捨てるとはどういうことか？ ※時間が余ればバーゼル条約		

7 今年度の校内授業研究テーマに対して授業者が意識して取り組んできたこと

環境問題について考えたことが無い生徒はいない中で表面的には「ゴミを減らしてエコな生活」と回答する。それなりの答えを考えるのではなく「当事者意識を持つ」というテーマを持ち、自身に何が出来るかを考えさせる。一方で「厳罰化」「自給自足生活」等の偏った考えになることも予想されるため、自身の生活の中の一部として循環型社会を根付かせるための意識をさせたい。

令和4年度 横浜氷取沢高校 グローバル教育研究推進校 公開研究授業

学習指導案

令和4年 12月2日(金) 6校時

教科： 外国語	科目： コミュニカティブスキルズⅡ	授業者： 西村 卓
単元名： TEST 5 Writing (副教材「英語4技能型テストへのアプローチ」)		

1. 本単元で育成したい資質・能力 【目指すべき生徒の学ぶ姿】

- ・集めた情報を取捨選択し、優先順位をつけて的確に内容を要約するスキル
- ・「要約」というスキルが将来的に様々な場面で重要であることを理解し、役立てていこうという姿勢

2. 単元の評価規準 (旧カリ準拠)

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力(書くこと)	言語や文化についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・「要約」の大切さを理解し、講義、作業を通してスキルアップしようとしている。 ・級友の要約を比較教材として活用し、自分のスキルアップに努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解できるレベルの英語を用いて与えられた文章の要約をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要約の手順や必要なスキルについてしっかり理解している。

3. 単元について

本単元「TEST 5 Writing」は使用副教材「英語4技能型テストへのアプローチ」の TEST 5 の1単元であるが、他の TEST や他技能の部分との直接的な関連性はなく、独立的に扱う。今までの各 TEST の Writing パートで、e-mail や課題英作文を扱い、都度生徒同士で書いたものを共有することを通して、共通して陥りやすいエラーなどをクローズアップしながらライティングスキルの育成を図ってきた。今回は文章を要約するというタスクであり、課題英作文とはまた違った方向からの情報収集や選別のスキルが求められる。英語による要約の具体的スキルだけでなく、また的確な要約のスキルは英語のみならず将来的に様々な場面で意識する/しないに関わらず必要とされることをしっかりと理解させたい。

4. 単元計画における指導と評価の工夫点

(1)「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の指導と評価

- ・「要約」スキルの重要性を理解させ、導入～振り返りの各タスクに意欲的に取り組めるよう啓発し、取り組み状況の観察及び、各タスクの提出状況を評価する。
- ・各生徒の提出課題を教材として共有することで新たな気づきを得ることの大切さを啓発し、取り組み状況を評価する。

(2)「外国語表現の能力(書くこと)」の指導と評価

- ・講義、例題タスクを通して基本的な要約のノウハウを理解させた上で類題(要約問題)に取り組みせ評価対象とする。

(3)「言語や文化についての知識・理解」の指導と評価

- ・要約の手順やスキルについて講義を行い、タスクへの取り組みや振り返りの様子を観察、口頭で指導、評価する。

5. 単元の指導と評価の計画(本時は、3時間扱いの3時間目)

◇は「学習の質を高めるための評価」(* 形成的評価)、☆は「*記録に残す評価」(総括的評価)

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価場面・評価活動
1	①導入の事前アンケートを提出する。 ②別冊ノートに基づき「要約」の要諦に関する講義を受ける。 ③②を踏まえて副教材42ページの課題に取り組む。	「要約」の基本的ノウハウをしっかりと理解させるとともに、英語のみならず様々な場面で「要約」が重要であることを最初に提示し、以後の授業へのモチベーションアップを図る。	関③の課題(◇) 作業中に机間指導し、作業が滞らないよう進み具合の遅い生徒に適宜口頭で指導、評価する。
2	①上記③の課題を模範解答例を使用して振り返る(主として講義を受ける)。 ②①を踏まえて類題に取り組み、ロイロノートに提出する。	情報収集→取捨選択→要約の手順を生徒がタスクを通して体感できるよう工夫する。	表②の課題提出(☆) 情報の取捨選択の妥当性、使用語数を中心に評価する。
3 本 時	①ワークシートとロイロを使用した振り返りタスクを行う。 ②ロイロアンケートの結果を使用したまとめの講義を受ける。 ③最後に事後アンケートを提出する。	まず自分の書いたものを振り返ること で他者のものを見る視点を作ることが大切であることを周知する。 一つでも新しい気づきを得ることができるよう声がけする。	関①の取り組み状況(◇) 生徒の進捗状況に合わせて適宜助言、評価を行う。 知③のアンケート結果(◇) 後日総括、評価し生徒に還元する。

6 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	【評価の観点】評価方法
導入 (3分)	①振り返りタスクの説明を受ける。	手順、目標や意義をしっかり周知する。	
展開 (25分)	①ワークシートを用いて、前時に提出した自分の summary の分析と振り返り→ロイロで他生徒の summary を読み込み、気づいたことを書き留める。 ②①をロイロアンケートへ入力・送信する。	まず自分の学習活動を振り返り、比較の視座を定めた上で他者から学ぶ姿勢を促す。	関①の取り組み状況(◇) 生徒の進捗状況に合わせて適宜助言、評価を行う。
まとめ (22分)	①ロイロアンケート結果の分析をする。 ②①を踏まえたまとめの講義を受ける。 ③最後のロイロで「事後アンケート」を提出する(時間がなければ指示のみ)。	集計データから何か一つ自分でまず気づきを得るよう促す。 まとめ講義では、今回学んだスキルを様々な場面で活かすよう促す。 事後アンケートは後日フィードバックするので真剣に回答するよう指示する。	知③のアンケート結果(◇) 後日総括、評価し、生徒に還元する。

7 今年度の校内授業研究テーマに対して授業者が意識して取り組んできたこと

- ・「他者の解答をクラス全体で共有し、教材としてお互い気づきを得る」ということを日頃から心がけてきているので、今回はそれを発展させてロイロアンケート機能による集計データ分析を試みた。(アンケート機能の活用)
- ・他者から適切に学び、気づきを得るためには、まず自分の学習の跡をしっかり振り返り、視座を定めなければ効果が上がらないことを重視している。(本時の展開の振り返り作業の手順)
- ・事前アンケートと本時の事後アンケートの回答内容を精査し、他者からの学びにより成長した部分がある程度把握できることを期待している。ただし、実際の総括的評価につなげるためにはデータの公平な定量化、しっかりとした定点観測、授業者間の共通理解や教材・指導方法の吟味など今後の検討課題が多い。

令和4年度 横浜氷取沢高校 グローバル教育研究推進校 公開研究授業

学習指導案

令和4年 12月2日(金) 5校時

教科: 情報	科目: 情報の科学	授業者: 早川 康人
単元名: 1章コンピュータの仕組みと働き 2節情報通信ネットワーク 2インターネットの利用 Web ページの作成手順		

1. 本単元で育成したい資質・能力 【目指すべき生徒の学ぶ姿】

自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、問題を解決するためには、何をすべきかを明確に捉えることができる能力の育成です。教えられたとおりにできると、高い評価を得られるような「答えがいつも用意されている学習」から脱却し、自発的なコミュニケーションにより、生徒たちが集団の中で自らのやる気を引き出し、取るべき行動を明確にしていく場面づくりを基本としています。

2. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
グループワークで積極的に意見交換をしたり、Web ページを主体的に作成したりしている。	グループワークの結果を、新しいWeb ページで表現している。	主体的に知識・技能を身に付けようとしている。 タッチタイピングの技能を身に付けている。	HTML の基本タグを理解している。 Google Workspace アプリケーションを使い分ける知識を身に付けている。

3. 単元について

HTML や Google サイトについて解説をし、実際に作成・表示させる。また、現在ある Web ページ(ホームページ・ウェブサイト)がどのような構成になっているのかに関しても考察させ、構造の設計から Web ページ制作実習に取り組む。

4. 単元計画における指導と評価の工夫点 ※「単元の評価」については、次ページの資料1「ルーブリック」を使用する。

(1)「関心・意欲・態度」の指導

指導:生徒1人ひとりが自由な意見交換ができる環境づくりをすることで、主体的な学びを引き出す。

(2)「思考・判断・表現」の指導

指導:新しいWeb ページの実現に向けた自由な発想ができる、グループワークの場を設定する。

(3)「技能」の指導

指導:タッチタイピング練習を毎時間の冒頭に設定し、入力技術の向上ができる場を設定する。

(4)「知識・理解」の指導

指導:デジタルノートを活用し、学校外でも単元内の知識を確認・復習できるようにしておく。

資料1「ループリック」

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
A	Web ページ実習について、主体的な意見交換ができる	他人の意見と自分の意見を比較し、発展させることができる	400文字以上入力することができる	知識を応用することができる
B	Web ページ実習に協調性を持って取り組むことができる	他人の意見を聞くことができる	300文字以上入力することができる	知識を形にすることができる
C	Web ページ実習に取り組むことができる	自分の意見を出すことができる	200文字以上入力することができる	聞いたことをデジタルノートに入力できる

5. 単元の指導と評価の計画(本時は、8 時間扱いの 4 時間目)

◇は「学習の質を高めるための評価」(* 形成的評価)、☆は「記録に残す評価」(総括的評価)

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価場面・評価活動
1	<ul style="list-style-type: none"> •Jamboardを用いて「Web ページ(本校ホームページ)」の率直な感想を入力し共有する。 •Googleドキュメントの共有機能を用いて、Web ページに関する「印象・良い点・改善案・理想」を4つに分けてグループワークを行う。 •Google スライドを用いて「グループワークで分かったこと」をまとめ、発表(1)を行う。 •タッチタイピング練習(5 分間) 	<ul style="list-style-type: none"> •Jamboard を閲覧モードにして結果を提示する。 •3分間という短い時間の中で1つのテーマを話し合う。 *グループワークで意見の個数を競い、活発な意見の出し合いを促す。 *グループ内の司会進行や入力が滞らないように注意しながら、教員2名が各グループを回って声かけをするに注意する。 	<ul style="list-style-type: none"> •ループリックを示し、グループワークのリーダー選出に際し加点を行うことを明言する。 <input checked="" type="checkbox"/> ポートフォリオ(◇) Web ページ作成実習を自分なりに整理し、記入させる。

2 3	<ul style="list-style-type: none"> ・後期中間試験の答案返却および解説を聞く。 ・タッチタイピング練習(5分間) ・タッチタイピング小テスト3 ・HTMLの基本タグの使い方について、ドキュメントファイルを用いて学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・後期中間試験範囲にあるインターネットの特性を主に振り返る。 ＊入力作業を踏まえ、5分間のタッチタイピングの目標として正タイプ率94%を提示する。 ＊実習での基本タグ4つの他に、デジタルノートを用いて画像や表の挿入やリンクの知識を身に付けられるよう促す。 	<p>知 デジタルノート(◇) 基本タグを確認する。実習が進まない生徒に対しては、タグ表記を再度確認するよう促す。</p> <p>技 タッチタイピング小テスト3(◇) 5分間で入力できた文字数をGoogle スプレッドシートに入力・添付・記録する。</p>
4 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・タッチタイピング練習(5分間) ・Googleサイトの作成練習で、「個人ページ」を作成する。 ・各グループ内で担当箇所を決め、本校のホームページ(Web ページ)を試作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のHTML実習との制作過程の違いを理解させる。 ・直感的にホームページを制作できるソフトウェアの利便性を提示する。 	<p>思 生徒の観察・発言の確認(◇) グループワークの様子を観察し、ルーブリック評価を行う。</p>
5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・タッチタイピング練習(5分間) ・各グループで本校のホームページ(Web ページ)を試作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ＊グループワークを通して他者の意見を理解させ、声かけをして自己の活動へ発展を促す。 	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・タッチタイピング練習(5分間) ・発表(2)のグループ発表準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ＊発表の際、他者の立場に立ったスライドになっているか確認し、修正を促す。 	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・タッチタイピング練習(5分間) ・発表(2)でグループ発表を行う。 		<p>思 発表(2)(☆) 事前に示したルーブリック(資料1)を用いて評価を行う。</p> <p>思 ポートフォリオ(◇) 本単元で理解できたことを記入させる。</p>

※ 関心・意欲・態度：**関** 思考・判断・表現：**思** 技能：**技** 知識・理解：**知**

6 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	【評価の観点】評価方法
導入1 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> HTML 実習での表示することへの難しさを振り返る。 		
導入2 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 本単元1時間目の「改善点」と「理想」を振り返り、現時点でのWebページ作成への思いや工夫を<課題>Google サイト「個人ページ」に入力する。 	<ul style="list-style-type: none"> Google サイト「個人ページ」はタブで開いたままにしておき、本時の「展開2」と「まとめ」で使用することを伝える。 	
展開1 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> タッチタイピング練習を5分間行う。 	<ul style="list-style-type: none"> *タッチタイピングの目標として正タイプ率 94%を提示する。 	<p>☒ 生徒の観察・発言の確認(◇)グループワークの様子を観察し、ルーブリック評価を行う。</p>
展開2 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> Google サイト「個人ページ」で作成練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> *「トップページ」「サブページ」の遷移の仕方や、HTML 作成と異なる直感的な Web ページ制作が意識できるよう声かけをする。 	
展開3 (25分)	<ul style="list-style-type: none"> Google サイトを使用した「横浜氷取沢高等学校ホームページ」を制作する。 Web ページの設計図をiPad上で作成し、グループで考え方を共有する。 各生徒が別ページを担当する。 マルチタスクで各グループの「理想のWebページ(本校ホームページ)」を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> *生徒の1人1台 PC (iPad・ペン)でロイロノートを活用し、「設計図作成」で書き足していくよう促す。 「設計図」どおりに制作を進めていけるか観察をする。 *本時の導入で入力した「Web ページ作成への思いや工夫」を実現できるように声かけをする。 	

まとめ (5分)	・Google サイト「個人ページ」に制作を進めてみた感想やうまくいかない点をまとめる。	・次時に向けた PDCA サイクルを各グループ、各自でまとめておくように注意する。	㊦ ポートフォリオ(◇) Web ページ作成実習を自分なりに整理し、記入させる。
-------------	--	---	---

7 今年度の校内授業研究テーマに対して授業者が意識して取り組んできたこと

・本単元の実習の中で、Google Workspace のアプリケーションソフトウェアである「Jamboard」「Google ドキュメント」「Google スライド」「Google サイト」を使いながら、グループワークで他者の考えを直接聞き、それらをまとめて発信する過程へと結び付けられるようにした。

・Web ページ制作を通して、グループワークで共有した「1つの目標」へ向かい制作することの難しさと、協調性の大切さを実感できるようにした。

教科：国語

1. 授業担当者より

- ・ 単元計画における指導と評価について気を付けたこと
 - ・ 自分の考えを書くことのできない生徒が多いので、自分で考えさせた上で、他者との答えを共有させ、他者の意見を取り入れることで全員が自分なりの考えを提出できるようにした。
 - ・ 他者の意見を聞いたあとの変化を朱書きで加筆させた。
- ・ 今年度の研究テーマに対して意識して取り組んできたこと
 - ・ ペアワークなど、周りの人と一緒に活動させた。
 - ・ 一人で考えさせない工夫をした。
- ・ 本日の授業の狙いと振り返り
 - ・ 課題が早く終わってしまった生徒には考えさせる別のテーマを示すことができたらもっと充実した。
 - ・ 教科書を読み、比較して答えを導き出そうとしたが、説明をした上で考えさせた方が良かったかもしれないと思った。
→「そうは思わない」との意見があった。意見の内容は「課題と成果」の②に記載した。

2. 協議出席者より

- ・ 成果と課題
 - ・ 他者の意見を聞いて、自分の考えが変化したところを赤字で書かせることは指導と評価を効果的に行うために良い方法である。ロイロノートの良いところを利用する。【①】
 - ・ 「土佐日記」を読んで説明を聞いてからこの問いかけをするのではなく、まず問いに対する答えを想像させ、本文を読んでから再度考えさせることは意味がある。「～という答えはナシ」と指示していたが、自由に書かせてもよいのでは。考えを誘導してしまう。【②】
 - ・ 授業の時間が余ったので、考えさせた答えを2～3つ電子黒板に映して、生徒に見せたら良かったのではないかと。(授業では音読させた)【③】

- ・自分の授業に取り入れたい内容
 - ・【①】については、全ての教員が取り入れた方が良い。評価しながら指導する際にはロイロノートを使用することは効果的である。
 - ・【③】については、良い解答の生徒名を出すのか、出さないのか。どちらもよし悪しがある。

教科：地理歴史

1. 授業担当者より

- ・ 単元計画における指導と評価について気を付けたこと
 - ・ まとめとしてではなく最初の導入として用いた。
- ・ 今年度の研究テーマに対して意識して取り組んできたこと
 - ・ 異文化理解には色々な見方がある「グローバル」とは何か。
 - ・ 海外に出ていく時には言語よりも「心」の大切さを生徒に伝えたかった。
 - ・ 「心」があれば世界に通用する。
- ・ 本日の授業の狙いと振り返り
 - ・ 生徒に自信を与えたかった。

2. 協議出席者より

- ・ 成果と課題
 - ・ 教員の「生の声」（教員の体験談）を聴くことができるので、生徒が必死に、感じながら授業を受けていた。
 - ・ 話の暗い部分と明るい部分のどちらも深堀されていた。
 - ・ 授業担当者でなければできない授業であった。
 - ・ 話題が飛び飛びになってしまった所に生徒がついてくるのが出来るのか心配であった。
 - ・ 授業時間内に収まりきらなかった内容をきちんと補うことが出来るのか。
 - ・ 歴史と地理を上手く併せていくとより良くなる。
 - ・ 興味を持つことから勉強に向かっていく、授業の入り方が生徒の気持ちを授業に向かわせる。
- ・ 自分の授業に取り入れたい内容
 - ・ いろいろな方向から一つの物事を捉えられるようになる感覚をつけることが出来る授業であった。
 - ・ 生徒が「付箋を用いて意見を共有する」ことを取り入れたい。
 - ・ 自分の経験や思い出をつなげて行って授業を行った。
 - ・ 普段のニュースなどで、自分が疑問に思うことを授業に取り入れたい。

教科：数学

1. 授業担当者より

- ・ 単元計画における指導と評価について気を付けたこと
 - ・ ロイロノートの共有ノートを用いて、他人の作成したカードを自分が見たい時に見て問題を解くことを行った。この協働作業で得られた姿勢を評価しようと思った。
 - ・ ICT の利活用、グローバル教育の視点も入れた授業構成とした。
 - ・ 他者の意見を共有できた（提出箱なしで）。
 - ・ 時間短縮ができた。
- ・ 本日の授業の狙いと振り返り
 - ・ プリント1枚に課題を1つにして、「みんなのノート」を増やしても良かった。
 - ・ 「考えを記述させる」のが大切であることを説明する。

2. 協議出席者より

- ・ 成果と課題
 - ・ 共有ノートを使って、他者の意見を見ることが出来たこと。
 - ・ 生徒からのアイデアを利用できること。
 - ・ ロイロノートの「生徒間通信」に課題がある。
- ・ 自分の授業に取り入れたい内容
 - ・ ロイロノートのノート全体を1枚の紙の様に使うこと。
 - ・ ロイロノートはアイデアを共有する場面に使用するのが良い。

教科：理科

1. 授業担当者より

- ・ 単元計画における指導と評価について気を付けたこと
 - ・ 学習指導をメインに、情報のインプット、アウトプットで記憶の定着を図った。
- ・ 今年度の研究テーマに対して意識して取り組んできたこと
 - ・ グラフを見た時の考え方をひろう。
 - ・ 表とグラフで別の考え方、視点から同じものへの取組を行った。
- ・ 本日の授業の狙いと振り返り
 - ・ グループを男女で分けてみたり、学力差で分けてみた。
 - ・ 人に考えを伝えることの難しさを実感した。
 - ・ 場面転換の改善が必要である。

2. 協議出席者より

- ・ 成果と課題
 - ・ 成績の良い生徒でも教えることが苦手である、話すことが苦手である。伝えることが苦手である者がおり、授業の意図にそぐわない場面があった。
 - ・ 教えあわずに答えだけを教えている。仲の良い人と話す。など授業の意図にそぐわない場面があった。
 - ・ 使う環境や人を選ぶが、情報の伝え方としてインプット、アウトプットを駆使しており、上手くいけば効率よく覚えることが出来そうである。
- ・ 自分の授業に取り入れたい内容
 - ・ 教えあうシステムで、あえて学力差のあるグループを作ることにより、理解している生徒も理解していない生徒も、自分にプラスに働くと感じた。
 - ・ 同じ問題を別の方向から取組むことが、多角的な視点を養うことにつながると思う。

教科：保健体育

1. 授業担当者より

- ・ 単元計画における指導と評価について気を付けたこと
 - ・ 単元の範囲の中で、明確な評価をつけた。
 - ・ 授業が進むにつれて生徒の変化が分かるようにした。
- ・ 今年度の研究テーマに対して意識して取り組んできたこと
 - ・ 環境についてグループで研究、分析、まとめを行う。
 - ・ まとめ、分析の作業がスムーズにできるように生徒に声かけとアドバイスを行った。
- ・ 本日の授業の狙いと振り返り
 - ・ 日本の社会全体の雰囲気の変化を感じさせることが出来た。
 - ・ 調べるための時間と発表に向けたまとめの時間配分が難しいと感じた。

2. 協議出席者より

- ・ 成果と課題
 - ・ 分析、まとめの雰囲気作りが重要であると感じた。授業内容と関係のない話もあったが、生徒は非常に盛り上がっていた。
 - ・ 教員の声かけの仕方や役割づくりによって発展的な内容の考察にもつながっていた。
- ・ 自分の授業に取り入れたい内容
 - ・ ロイロノートを使用した、導入時の視聴率の確保。
【アンケートや時事問題など】
 - ・ 生徒の提出箱の公開の仕方や資料の効率的な配布方法について。
【ロイロノートの提出箱や生徒のアンケートなど】

教科：外国語（英語）

1. 授業担当者より

- ・ 単元計画における指導と評価について気を付けたこと
 - ・ アンケートは「他者の考えを知ること」であったため、今回活用した。
 - ・ ロイロノートのアンケート機能の活用は、段階的に取組むための第一段階であった。

- ・ 今年度の研究テーマに対して意識して取り組んできたこと
 - ・ 「他者の考えを知ること」で得られた変容を見取ることは非常に難しい。
 - ・ アンケートの振り返りを評価に多少入れる事は可能であり、意識させるようにした。

- ・ 本日の授業の狙いと振り返り
 - ・ 単元の中で、3時間を通して本文の抜き出しから、生徒自身の英文が書くことが出来るようになるまで、段階的かつ継続的な指導を心がけた。

2. 協議出席者より

- ・ 成果と課題
 - ・ ICTの先進的な活用が見られた。教員の授業準備の時間等、大きな負担があるが、生徒の意識の変化を促す構成となっていた。主体的に学習に取り組む態度等、生徒の変容を見取ることにワークシートの記述をふまえて、検討の余地がある。
 - ・ 研究テーマに沿って、生徒の実態を捉えた授業が行われていた。
 - ・ 題材によって活動の形態を変えることは必要である。
 - ・ 活動あって学びなしにならない視点を参考にしたい。
 - ・ Summaryを通して、ディスコースマーカー等の接続詞を扱わなかったことには意図があったのか【質問】
 - ・ ロイロノートのアンケート機能によって生徒の考えを可視化することは、他者の考えを知る上で重要である。
 - ・ 互いの作品、成果物を時間内に読みあう活動をぜひ実践したい。
 - ・ ライライングパートは教員の負担が大きく、時間もかかる。今回の実践の様に意識的に生徒を指導したい。

- ・ライティングの考えというと内容を重視するが、表現に焦点を合わせることに意義を感じた。
- ・授業のまとめは非常に情熱的であった。
- ・本文の訳の文量を3分の1にすることへの意図や狙いが強調されていた。
- ・選択肢を通して要約に取組ませるなど、授業を通して、生徒の反応を見ることは高度な技術が必要であった。

教科：情報

1. 授業担当者より

- ・ 単元計画における指導と評価について気を付けたこと
 - ・ 2年生9クラスの授業進度がそろそろような計画を立てた。
 - ・ 集団の中で、自分の考えをしっかりと伝えられるよう声掛けをした。
 - ・ グループワークの中で自主性をもって表現・パフォーマンスを出来るよう促した。
- ・ 今年度の研究テーマに対して意識して取り組んできたこと
 - ・ ジャムボードを活用して他者の考えを共有した。
 - ・ 活発なグループワークが出来るよう、各グループを回って声掛けをした。
- ・ 本日の授業の狙いと振り返り
 - ・ 本校のHPを見て感じたことを生かしてグループごとに共有し、4人で分担してHPを作成する。
 - ・ まとめの5分の時間を取ることが出来なかった。

2. 協議出席者より

- ・ 成果と課題
 - ・ 毎回の授業で行っているタッチタイピング練習やデジタルノートの入力を通して生徒がPCを扱う能力が高まっている。
 - ・ グループワークは将来、仕事をする上でも大切であり、役に立つ。
 - ・ 3分間区切ったのグループワークで、メリハリがあり、生徒が生き生きと生かしていた。
 - ・ 生徒が自ら気づき、考えて活動していた。
 - ・ 分かりやすい説明と声掛けで、生徒は無理なくスキルが高められている。
 - ・ ロイロノートを活用して設計図の作成をしていた。
- ・ 自分の授業に取り入れたい内容
 - ・ グーグルサイトの利用
 - ・ HP作成を英語バージョンでもできるのではないか。